

ふるさとの仲間たち

箱根生きもの図鑑 (33) ヤマアカガエル



抱接中のヤマアカガエル。左は卵塊。

春の遅い仙石原や芦ノ湖周辺でも、3月に入るとこの時期にしては暖かい雨が降ることがあります。翌日の天気が悪くて暖かい日であれば、湿原や谷戸の水たまりや、湖尻水門の水たまりなどから、キヤラララ……キヤラララ……というかわいい声が聞こえてきます。まるで小さな妖精たちが笑っているかのような声は、意外にも、産卵場で雌を待ち受けるヤマアカガエルの雄のラブコールなのです。

腹のふくらんだ大柄な雌が現れると、雄たちは次々と飛びつき、争奪戦が始まります。たいていは運良く一番先に背中から雌のわきの下を抱き締めた雄が子孫を残すこととなります。と言つのも、この時の雄の腕の力はとても強く、しかも親指のつけねには、婚姻瘤（こんいんりゅう）というタコのようなものがあり、一度抱きついたら産卵が終わるまで離れないのです。

地球温暖化が問題となつていますが、繁殖行動の開始は気温に左右されるため、早春に産卵するカエルの産卵期はだんだんと早まっています。

今年も例年になく早く、2月3日にヤマアカガエルの鳴き声が聞こえました。これまでも2月中に産卵することがありましたが、寒さが戻つて卵が凍結し、死滅することもあります。冷え込みのきびしい箱根山地では、あまりにも早い産卵は好ましくないので、昔はあちこちにあった産卵場もすっかり少なくなり、生息数も減少しています。たかがカエルと思うかも知れませんが、昔は食用として利用され、へびやヤマセミ、タヌキをはじめ、多くの動物たちの食糧となつておられることを忘れてはなりません。

とっておきの1枚 拝見!

宮城野 松本健次さんより
(前列右端が松本さん)



箱根町が町村合併する前は、毎年5か町村対抗で陸上競技大会が行われていました。駅伝競走で、宮城野地区は万年2位、3位の成績だったのですが念願の初優勝したときの記念すべきスナップです。優勝カップや賞状を手にした50年も前の写真ですが、このころの記憶を鮮やかによみがえらせてくれる、若かりし日のとっておきの1枚です。

皆さんの思い出や記念の写真を募集しています。詳しいことは企画課へお問い合わせください。

わが家のちびっ子



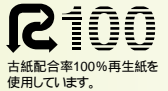
飯島 優羽 ちゃん(3歳4か月)

敬三・孝子さんの長女(湯本)

♥お母さんからひとこと
「これからも笑顔が似合う
優しい女の子でいてね」

町の人口と世帯

人口	14,900 (-60)
- 2月1日現在 -	男 7,044 女 7,856
()内は前月比	世帯 7,223 (-25)



ごみ減量標語 すてますか ゴミと一緒に 地球の未来